

ちょっと？クセの強い探偵

久瀬ヶ江剛の探偵物語

－ ドラマ台本 －

－ 第一話・依頼 －

登場人物

久瀬江探偵事務所所長 .. 久瀬ヶ江剛(くせがえつよし)

ヒロイン .. 紀賀佳恵(のりがよしえ)

久瀬江探偵事務所秘書 .. 花爾雅未来(はなしがみらい)

紀賀の彼氏組織絡み .. 芥田歩(あくたあゆむ)

構成

第一話 依頼

物語

ヒロイン紀賀佳恵の彼氏、芥田歩が浮気をしてるんじゃないかと、浮気調査を久瀬ヶ江探偵事務所に依頼する。
最初は断ろうとするのだが、写真に写っていたあるものに気が付き調査を始める。調査をしていくにつれて芥田がある組織の一員であることが判明。
その組織は詐欺集団「黒ノ巣」に所属していることが分かる。
芥田が紀賀に行ってきた行動そのすべてが紐づき、久瀬ヶ江が一刀両断する。

★① 事務所まで向かうシーン

一人の女子大生が一枚のチラシを頼りに道を歩いている。

「多分この変だと思っただけだな・・・全然見つからないなあ。」

紀賀（ナレ）

私の名前は紀賀佳恵（のりがよしえ）今現在困ったことが起きており自宅のポストにあったこのチラシを片手にあるところを訪ねているところだ。

そのチラシは“久瀬ヶ江探偵事務所”のチラシで、ちよつと名前にクセがあるので怖い感じもするけど、どうしても頼みたいことあるし、何でも受け付けてます！って書いてあるので、とりあえずおためしと思っただけを訪ねようとしているのだ。

紀賀 「この建物の中かな？なんか普通のマンションみたいだけど。」

もう一度チラシを眺め住所を確認する。

紀賀 「スマホもここを指してるし、ここの一階みたいだし、

多分看板かなんかあればいいんだけど。」

といいながらクセの強い看板を見つける。

紀賀 「多分これなんだろうけど、クセが強い看板。。。とりあえずチャイムを。」

チャイムを鳴らすのが反応がない。

紀賀 「あれ？留守なのかな？」

ドアノブを確認する。ドアはカギがかかっていなく開いていた。

★② 事務所でのシーン

紀賀 「あれ？開いてる。なんて不用心なんだろ。とりあえずお邪魔します。」

紀賀は事務所にあがり奥に進む。ドアに差し掛かり開けて中を確認する。

紀賀 「あれ？誰もいない？ここであつてるのかな？」

そのまま奥に進む誰もいないのを確認し、机の上に置かれている紙手に取る。

紀賀 「なにこれ？“さー私はどこにいるでしょう？”・・・え？どういうこと？探すの？

え、私ここに依頼に来てるのに私が探さないといけないの？何この事務所！？わけわかんないもう帰ろう」

その時どこからか笑い声が聞こえた。

久瀬ヶ江 「ふふふふふふふ」

紀賀 「え？何か今聞こえた。」

久瀬ヶ江 「君はあきらめるのかい？！その程度の謎も解けず今帰ろうとしたのかい！？」

紀賀 「ど、どっから声が聞こえて！？え？・・・」

久瀬ヶ江

指を指し手壁まで押し付けるようにしながら早口でしゃべる。

「君は大変失礼な奴だな！今からお願ひする人の名前を間違えとかありえないだろ！？どんな教育を受けてきた！？どこ出身だ！？どこの卒業生だ！？どこ中だ！？？どういう人生を歩んだら依頼する人の名前間違えるんだ！？しかも“くせえ”だど！？間違った挙句、悪口を平気で真顔で言えるなんてどんな神経してるんだ！？両親の顔が見てみたいもんだね！」

紀賀が久瀬ヶ江の指を払いのける
チラシを見せつけるように紀賀が反抗するようにしゃべりだす。

紀賀 「こんな癖の強い名前を一瞬で覚えられるわけないでしょ！」

久瀬ヶ江

「一瞬で覚えられなくてもそのチラシを読み上げれば過ちを起こすこともないだろ！そのくらいのは小学生にだって理解できる、君はそんな低レベルなスペックでよくここまで生きてこれたな！」

紀賀 「あなたこそ初めてのお客さまに対してその態度は何なんですか！？めっちゃくちゃ失礼だと思いますけど！」

久瀬ヶ江

「失礼に失礼といわれるのは心外だな！（君のお父さんとお母さんはいったい・・・）」
ピロロロロ♪
※○あたりで携帯が鳴る。
久瀬ヶ江がポケットから携帯電話を取り出し着信を取る。

久瀬ヶ江 「俺だ・・・合コン？・・・来週？・・・めっちゃ空いてる！・・・OKよろしく！」

紀賀 「なんでこのタイミングで電話に出んのよ・・・しかも合コンって・・・」

携帯をポケットに戻す。

久瀬ヶ江 「気が変わった？少し稼がないといけない？どんな依頼かね？」

紀賀 「なにこの人の変わりよう・・・えっと実は私の彼氏のこと調べてほしく」

紀賀は鞆から写真を取り出し久瀬ヶ江にお渡しそうとするとところで久瀬ヶ江瞬時に取る。

久瀬ヶ江 「これが君の彼氏か？なかなかの男前だね・・・で、何を調べてほしいんだい？」

写真を見ながら久瀬ヶ江はデスクの椅子に座る。
紀賀は久瀬ヶ江に近き説明をする。

紀賀 「えっと・・・彼浮気をしていると思うんです！最近連絡も遅いというか、前はすぐに連絡を返してくれたのに・・・それに最近仕事で出張が多いとかで・・・ここ数カ月会えて

ないんですけど、どうもこの付近で見かけたって友達が言ってる。多分、いや！絶対浮気をしていると思うんですよ！連絡しても会ってくれないし、でも私が追っかけまわすのも・・・そんなときに家のポストにこのチラシがあったからここに来たんですけど。」

久瀬ヶ江 「は？ちよつとまてこの俺に男の尻を追っかけませと？はあ！？」

紀賀がにらみつけるように反論する。

紀賀 「このチラシに何でも受けますって書いてあるから私はここに来たんですよ！私の彼氏の尻を追うとか変なこと言わないでください！私だって真剣に悩んでるんでわざわざこんな辺鄙なここに来たんですよ！」

それに合わせて椅子から立ち上がり久瀬ヶ江も反論を行う。

「何でも受けますって書かないと依頼が来ないだろ！わんちゃん美人な人からの依頼が来ることを願って出したのに来たのがこんな常識知らずの小娘が来るとは思いませんかったわ！（あーこの時間どうしてくれるんだ！）」

ピロロロロ♪

※○あたりで携帯が鳴る。

久瀬ヶ江がポケットから携帯電話を取り出し着信を取る。

「俺だゝゝゝなに？合コンの参加者Sだって！あざゝす！来週よろしく！」

紀賀 「なんでこのタイミングで（電話に出んのよ！）」

※○あたりでしゃべりだす携帯を持ったまま話し出す。

久瀬ヶ江 「気が変わったゝ今日は私は気分がいいゝこの浮気調査引き受けようゝ」

※久瀬ヶ江は指をさしながらセリフを言う。

★③ 事務所花爾雅登場シーン

紀賀 「私の依頼をあなたの気分ですってゝゝゝしかも合コンでSが来るからSだなんてゝゝゝ」

紀賀は下を向きながらがっかりした口調で話す。

久瀬ヶ江が背を向け話し出す。

「よし！まずはこの近隣一帯を調べないとなく花爾雅くゝん！」

久瀬ヶ江が指を鳴らす。

花爾雅 「はい。それではこの付近全域の防犯カメラを追ってみましょう。」

紀賀の後ろに花爾雅が現れ話し出した。

「きゃあー！！！」

紀賀は驚き床に尻もちをつく。

紀賀 「えー？えー？どこからこの人現れたんですかー？」

久瀬ヶ江 「花爾雅くんはうちの執事だゝ超優秀で、凄腕のハッカーだぞゝ」

デスクにPCをおいた花爾雅は高速で打ち込みを始める。

花爾雅 「久瀬ヶ江さん出ましたよ。」

久瀬ヶ江

「いつもながらはやいね〜どれどれ」

久瀬ヶ江は少し曇った顔をする。
気になった紀賀が近づこうとする。

紀賀

「私も見せてください。」

久瀬ヶ江が止め紀賀に話す。

久瀬ヶ江

「この件まとめり次第ご報告させていただきます。お嬢様〜」

万弁な笑みを浮かべながら話す。

紀賀

「え、なに？気持ちわる。」

※第一話終了※